

# 建築分野の大学教員が作成したティーチング・ポートフォリオ および教育実践方法の紹介

小畑 拓未

## Introduction of Teaching Portfolios and Teaching Practices Developed by University Faculty in the Field of Architecture

KOBATAKE Takumi

**Abstracts:** The teaching portfolio is an educational achievement record consisting of the text of an A4 8-10 page summary of the faculty member's educational philosophy and initiatives, and supporting evidence. This paper presents an overview of the author's teaching portfolio, and also introduces the author's efforts related to education that could not be described in the teaching portfolio.

キーワード：ティーチング・ポートフォリオ、建築設計教育、教育実践、教育改善

**Keywords:** Teaching Portfolios, Architectural Design Education, Educational Practices, Educational Improvement

### 1.はじめに

ティーチング・ポートフォリオ（以下、TP と記す）は、教員の教育理念や取組みの内容を A4 で 7~10 ページにまとめた本文とそれを裏付ける根拠資料からなる教育業績記録である。TP は 1980 年代にカナダで始まり、1990 年以降アメリカで急速に拡大した<sup>1)</sup>ものであり、日本国内においても TP を導入している大学が着実に増加している<sup>2)</sup>。建築分野においても複数の教員が TP を作成しているものと思われるが、日本建築学会のホームページにおいて、「ティーチング・ポートフォリオ」、あるいは、「ティーチングポートフォリオ」等と論文検索しても、本稿執筆時（2024 年 1 月）においては 1 件も文献がヒットしない。そこで、建築分野における TP 普及、教育改善の一助となることを目的に、建築環境工学分野の教員である筆者が作成した TP の概要と教育活動の内容を紹介する。筆者が作成した TP に関しては WEB 上で公開されているため<sup>注 1)</sup>、TP の詳しい内容についてはそちらを参照されたいが、本稿においては TP では紹介しきれなかった、筆者の教育に関わる取組みを具体的に紹介していくこととする。また、佐賀大学<sup>3)</sup>や麻布大学<sup>4)</sup>は、教員の TP を公開しているが、経験の浅い若年の教員が作成したものは少ないため、教員歴 2 年未満（本稿執筆時）の筆者の事例紹介が、経験の浅い大学教員の TP 作成および教育実践の参考になれば幸いである。

### 2.ティーチング・ポートフォリオ（TP）とは

TP は、自らの教育活動について振り返って記述された 7-10 ページ程度の本文とそれらの記述を裏づけた資料（エビデンス）から構成される教育業績についての厳選された記録であり、教育改善あるいは教育業績の評価を主たる目的として作成される<sup>5)</sup>。また、栗田<sup>2)</sup>によると、TP はおおよそ以下の構成で作成される。

責任 TP の自己省察の対象となる教育活動の具体的な事実を記述する。期間としては作成目的にもよるが直近の 3-5 年程度とすることが多い。授業科目の他、クラブ・サークル活動の監督・顧問、研究室指導、担任、寮の主事、カリキュラム開発、新任教員指導、他

所での非常勤講師、公開講座担当など、自分が教育活動とみなせると考えるものは基本的に含める。

**理念** 教育活動における自分の行動原理となる重要な信念や姿勢を理念として記述する。観点としては、どのような学生を育てたいか、大学教員としてどうありたいか、学問をどのように考えているか、などから考えるとよい。

**方針・方法** 教育の理念を実現するための方針やその方針を具体化した方法を記述する。自分の教育活動において行っている授業を組み立て方、適用している教授方法、評価方法、学生への接し方などを具体的に記述する。

**改善** 日頃教育の質向上のために行っている努力について記述する。具体的には、研修への参加や資格の取得、教育に関する勉強会の実施、などがあげられる。

**成果・評価** 教育活動を行った結果としての学生の成長や成果、あるいは、学生・第三者からの評価を記述する。前者の「成果」は、授業前後での学生の能力向上の証拠、学生の卒業論文、研究発表、就職などが具体的な成果として記述される。一方、後者の「評価」は行った教育活動に対する学生の評価や他者からの評価、教育活動に関する受賞歴を記述する。

**目標** 理念の実現に向けた今後の展望として記述する。短期目標・長期目標を区別し、1、2年で実現できるものを短期目標、長期的なものを長期目標として設定する。(栗田、2020)

TPは、教員の人事、採用の際の教育業績評価としても用いることができる。実際に、アメリカの大学では、テニユア審査等でTPが用いられている<sup>6)</sup>。また、国内においては、佐賀大学等で教員公募の提出書類としてTPを求めており<sup>7)</sup>、今後、TPを人事、採用の際に使用する大学は増加していくものと思われる。

### 3.活水女子大学におけるTP作成ワークショップ

通常、TP作成者はメンティーと呼ばれ、メンティーはTP作成ワークショップ（以下、TPWSと記す）に参加し、メンターと呼ばれるTP作成支援者とのメンタリングを通して、TPを作成することが多い。我が国においては3日間をかけて行われることが多く<sup>8)</sup>、活水女子大学においても2023年8月8日から10日の3日間、TPWSが開催された<sup>注2)</sup>。メンティーは、筆者を含む3名の教員（筆者以外の参加者は建築分野以外の教員）であった。メンティーは事前にTPスタートアップシートを記入し、ワークショップの2日前までに提出した。これは、A4用紙に教育活動の内容や取組みについての質問があらかじめ記載されており、その質問への回答を記入していくものであり、円滑なTP作成を支援するものである。その後、TPWS初日にTPチャート<sup>9)</sup>を作成し、それをもとに初回のメンタリングを実施し、TP執筆へと移行した。その後、何度かのメンタリングを通し執筆作業を進めていった。3日目終了時には、TPを概ね完成させ、TPWS終了から約10日後に最終提出した。また、3日目には発表会の時間が設けられており、各メンティーの教育理念、教育実践の内容を共有することができた。

### 4.筆者が作成したTPの概要

筆者が作成したTPのイメージを図1に示す。表紙、目次の後に13ページの本文が続く形である。本文の構成は、「はじめに」⇒「教育の理念」⇒「教育の責任」⇒「教育の方針と方法」⇒「教育評価・学習成果および改善」⇒「今後の目標」⇒「まとめ」⇒「添付資料の一覧」となっている。前述のとおり筆者が作成したTPはWEB上で公開されているため<sup>注1)</sup>、詳細についてはそちらを参照されたいが、ここでは概要を以下の通り項目ごとに紹介する。

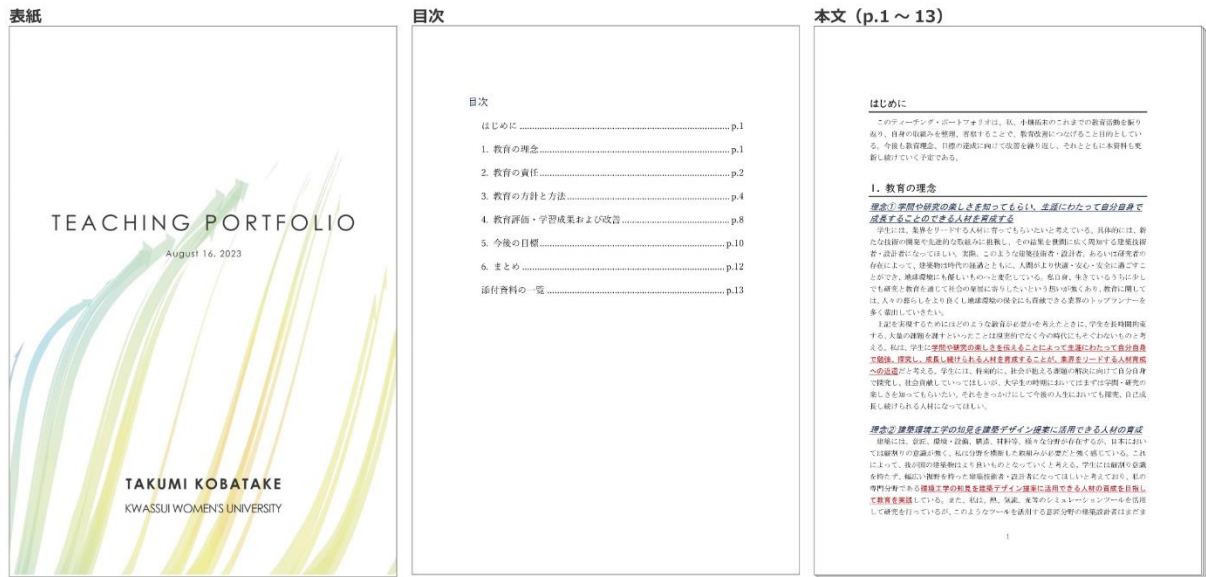


図 1 筆者が作成した TP のイメージ

1) 「はじめに」

ここでは、TP 作成の目的（自身の取組みを整理、省察し、教育改善につなげること）について記述した。

2) 「教育の理念」

教育の理念について記述した。筆者の場合は、表 1 に示した 3 つを教育理念として掲げている。日常、この理念のもと教育活動を実施しているが、改めて文字として書き起こすことで、自らの理念を再確認することができた。

表 1 TP に記した教育理念の概要

<p><b>理念①</b> 学問や研究の楽しさを知ってもらい、生涯にわたって自分自身で成長することができる人材を育成する</p> <p>学生には、業界をリードする人材に育ってほしいと考えている。学生に学問や研究の楽しさを伝えることによって生涯にわたって自分自身で勉強、探究し、成長し続けられる人材を育成することが、業界をリードする人材育成への近道だと考える。大学生の時期においてはまずは学問・研究の楽しさを知ってもらい、それをきっかけにして今後の人生においても探究、自己成長し続けられる人材になってほしい。</p>	<p><b>理念②</b> 建築環境工学の知見を建築デザイン提案に活用できる人材の育成</p> <p>建築には様々な分野が存在するが、学生には縦割り意識を持たず、幅広い視野を持った建築技術者・設計者になってほしいと考えており、私の専門分野である環境工学の知見を建築デザイン提案に活用できる人材の育成を目指して教育を実践している。また、環境シミュレーションを活用する意匠分野の建築設計者はまだまだ少数である。学生には、環境シミュレーションを活用し、建築デザイン提案を行い、地球環境の保全に貢献する設計者になって欲しいので、環境シミュレーションを活用した設計演習等を実施している。</p>	<p><b>理念③</b> 自分自身が手本となり背中を見せる</p> <p>私自身、学生時代の指導教員や会社員時代の上司の背中を見て、研究や仕事に取組む姿勢を学んできた。学生にも学問・研究を楽しみ、一つ一つの仕事を高い質でこなすようになって欲しいので、私自身も日頃からこのことを強く意識し、質の高い教育を提供することで、学生にとって手本となる存在になりたい。そして、学生の人生に良い影響を与えたいと考えている。</p>
---	--	---

3) 「教育の責任」

2023 年度時点での担当授業の概要（表 2）や卒業研究での指導、担任業務等、筆者の業務のうち教育に関わるものの概要を記した。

表2 筆者の担当授業リスト

	科目名	年度	専門/教養	対象年次	座学/演習
現在担当科目	建築環境工学	2022・2023	専門	1年	座学
	環境論	2022・2023	専門	1年	座学・演習
	建築製図	2022・2023	専門	1年	演習
	建築設備	2022・2023	専門	2年	座学
	建築製図CAD	2022・2023	専門	2年	演習
	デザインプレゼンテーション	2022・2023	専門	3年	演習
	デザインマネジメント	2022・2023	専門	3年	演習
	建築材料学	2022・2023	専門	3年	座学
	家庭電気・機械	2022・2023	専門	3年	座学
	建築生産	2022・2023	専門	3年	座学
	学科専門セミナーⅠ	2022・2023	専門	3年	演習
	学科専門セミナーⅡ	2022・2023	専門	3年	演習
	学科専門セミナーⅢ	2023	専門	4年	演習
	学科専門セミナーⅣ	2023	専門	4年	演習
過去に 担当した科目	学科特別講義	2022	専門	1年	座学・演習
	学科特別演習	2022	専門	1年	座学・演習
	キャリアデザインセミナー	2022	教養	1年	演習

#### 4) 「教育の方針と方法」

前述した3つの理念を実現するために、どのような方針をたて具体的にどのような取組みを実施しているかを記した。筆者の方針、取組みの内容を表3に示す。筆者の場合は5つの方針を立てているが、方針①～③は理念①に、方針④は理念②に、方針⑤は理念③に対応している。表内の各取組みについては、次章において詳しく紹介する。

表3 TPに記した教育の方針と方法

<p><b>方針①: 楽しく学び、学生の興味・関心を引き出す</b></p> <p>■『今日の1けちく』 ■作品や研究の紹介 ■質問・感想シート</p>
<p><b>方針②: 徹底的にわかりやすく</b></p> <p>■毎回授業の配布資料 ■特別配布のオリジナル資料 ■オリジナルの試験対策問題集</p> <p>■質問・感想シート ■動画教材</p>
<p><b>方針③: 自信をつけさせる</b></p> <p>■前向きになれるようなフィードバック ■試験点数の開示 ■少しだけ高めめのハードルを課す</p>
<p><b>方針④: 座学で得た知識をデザイン提案に活用するということを意識づける</b></p> <p>■レポート課題における実践を意識したテーマ設定 ■オリジナルの設計演習プログラム</p> <p>■授業内容に関連する作品や研究結果を積極的に紹介</p>
<p><b>方針⑤: 授業、資料はプレゼンテーションのお手本</b></p> <p>■手本となる配布資料・話し方 ■複数のオリジナル資料や動画教材の提供</p>

#### 5) 「教育評価・学習成果および改善」

ここでは、授業評価アンケートの結果や教育に関わる受賞実績<sup>注3)</sup>について述べ、次章において紹介する「質問・感想シート」での学生の声や授業内で実施した独自のアンケート<sup>注4)</sup>の結果を授業改善に活用していることを記した。

#### 6) 「今後の目標」

おおそ10年後を見据えた教育における長期目標とその実現に向けた中期、短期目標を設定し、記述した。筆者の場合は表4に示した通りの目標を定めTPに記した。

表 4 TP に記した今後の目標

<b>長期目標</b>
最大の目標は「 <b>業界をリードする人材を多数輩出する</b> 」である。具体的には、新たな技術の開発や先進的な取組みに挑戦し、それを世間に広く周知する建築技術者・設計者を多く輩出することで、社会に貢献していきたい。更に具体的には、「 <b>環境工学の知見・技術を建築設計に活用し地球環境の保全に貢献できる設計者の育成</b> 」を目標とする。
<b>中期目標</b>
理念②をより高度なレベルで達成するために、新たな授業科目を追加したいと考えている。例えば以下の内容を考えている。  <b>執務者の健康、知的生産性に配慮したオフィスの設計演習</b> 健康や知的生産性に配慮したオフィスの事例調査を実施した後、オフィスの健康・知的生産性を評価できるツールである CASBEE- ウェルネスオフィスの概要を学ぶ。その後、指定された敷地にオフィスを設計し、CASBEE- ウェルネスオフィスで、自身が設計した建物を点数化する。
<b>短期目標</b>
<b>短期目標① 教育活動の効果、成果を継続的に確認する</b> 現状、教員 2 年目であり、様々な取組みの効果がまだ現れていない、あるいは、確認できていない部分が多い。そのため、授業評価アンケート、質問・感想シート、独自のアンケート調査等の結果を十分に分析し、改善と実践、効果の確認を継続的に繰り返していく所存である。
<b>短期目標② 学生に学会発表を経験させる</b> 学会に参加し、他大学の学生や教員の研究、作品に触れることで、学生の学問・研究への関心をより一層深めたい。まずは、2023 年度日本建築学会九州支部建築デザイン発表会(2024 年 3 月)での発表を目指す。
<b>短期目標③ 学科作品展(卒業制作)でのゼミ生展示作品を前年度比でクオリティの高いものとする</b> 私が所属する生活デザイン学科では、例年 2 月頃に卒業制作の展示会(学科作品展)を長崎県美術館で実施している。ゼミ生には、例年の作品に比して高いクオリティの作品を展示できるように指導を行う。なお、「高いクオリティ」とは、学生自身が自分の作品を見て、過去の先輩たちよりも自分の作品が優れていると思えるようなクオリティであり、自分に自信持って卒業して行ってほしい。
<b>短期目標④ 科目別成績優秀賞を導入する</b> 学生に自信をつけさせる、やる気にさせることを目的に、各担当科目で成績の最優秀者(原則一名)を表彰することとする。科目ごとに表彰状を用意し受賞者に渡す。
<b>短期目標⑤ 建築環境工学と建築設計教育のコラボレーションを研究テーマとし、教育改善につなげる</b> 「建築環境工学と建築設計教育のコラボレーション」を研究テーマとして掲げ、研究成果を教育改善にフィードバックする。既に、2022 年度の学内紀要や日本建築学会で成果を公表しているが、引き続き研究を実施する。将来的には、継続して研究を行うことで、理念②「建築環境工学の知見を建築デザイン提案に活用できる人材の育成」の達成を目指す。

7) 「まとめ」

図 2 を掲載し、TP の総括とともに今後の所信を述べた。

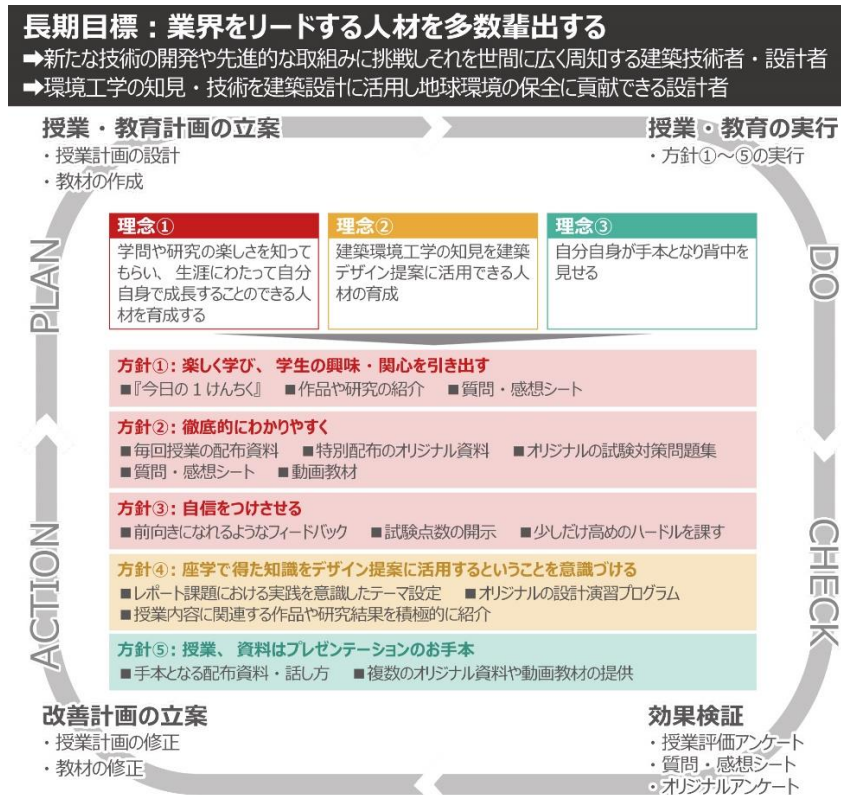


図 2 TP の内容をまとめた図

8) 「添付資料の一覧」

これまでの記述を裏付ける根拠資料の一覧を記した。内容については TP を参照されたい<sup>注 1)</sup>。

## 5.教育における具体的取組みの紹介

ここからは TP 内で十分に紹介しきれなかった筆者の教育における取組みを紹介する。

### 1) 毎回授業での配布資料

ほとんどの授業で市販のテキストを使用せず、毎授業でオリジナルの資料を作成、配布している。そのイメージを図3に示す。配布資料は穴埋め形式となっており、学生は授業中に空欄部分を記入していく。このような資料を作成、配布している理由は、知識の提供だけでなく、その理論・物理現象を利用した建築デザインの事例紹介や研究紹介を充実させることで、学生の興味・関心をひきだすことが可能と考えており、市販のテキストではその事例紹介や研究紹介が必ずしも充実しているとは言えないためである。授業内では後述の「今日の1けんちく」だけでなく多くの建築物や研究成果を紹介するようにしている。また、市販のテキストの図表等は、白黒で表現されたものが多く必ずしも分かりやすいものではないので、Adobe illustrator 等で筆者が自作し、わかりやすい・勉強しやすい資料を提供するように意識している。更に、後述する「質問・感想シート」に対する回答、「今日の1けんちく」、「前回の復習」、「記憶定着のための〇×テスト」を資料内に組み込むこともオリジナルで資料を作成・配布する目的である。

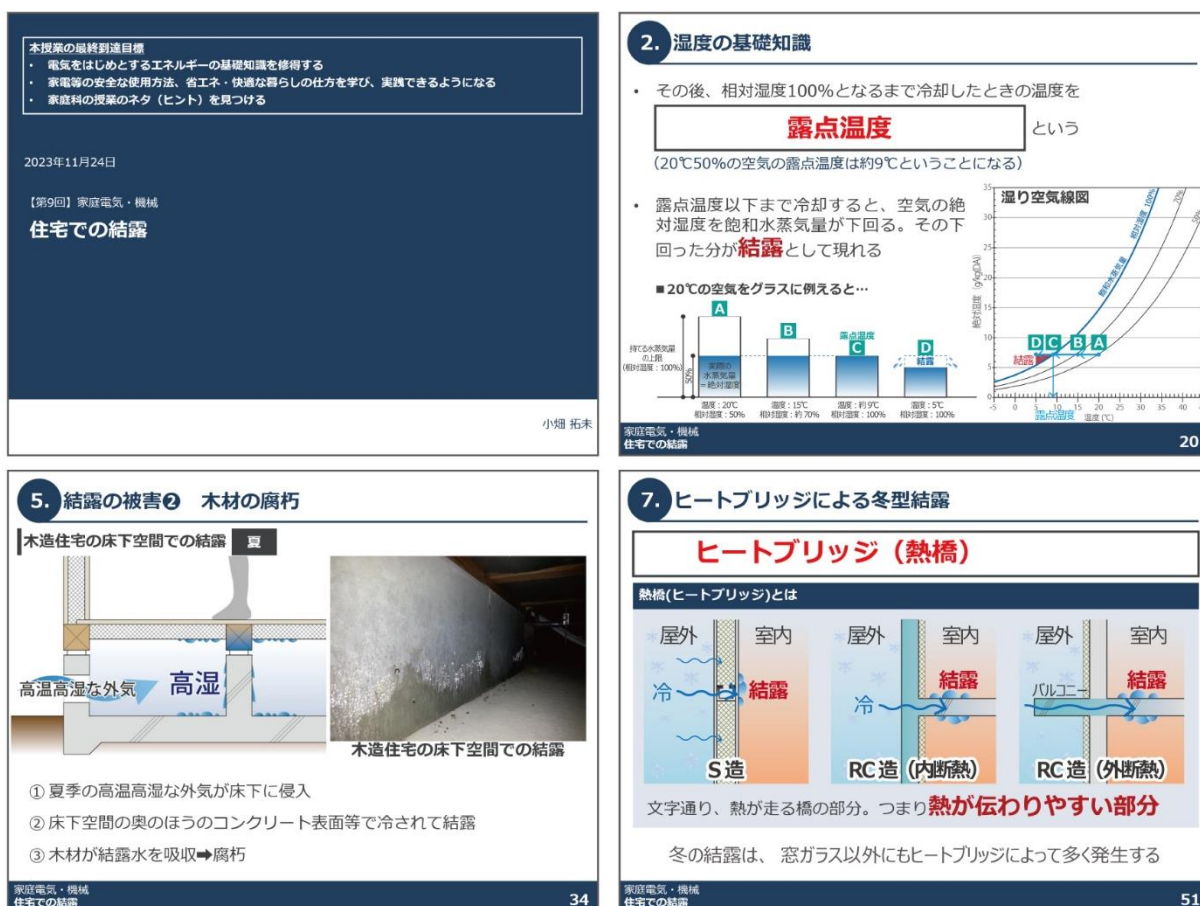


図3 毎回の配布資料のイメージ

### 2) 「質問・感想シート」

毎回の授業で図4に示した「質問・感想シート」を配布し、学生に授業の感想や質問を記入してもらい、授業終了後に回収している。質問、感想に対しては、次回授業の冒頭で回答し、回答内容は前述の毎回授業の配布資料にも組み込んでいる(図5)。誰しものが気軽に質問できるようにすることを目的としており、疑問点の解消だけでなくその全体共有も目的としている。また、授業の内容

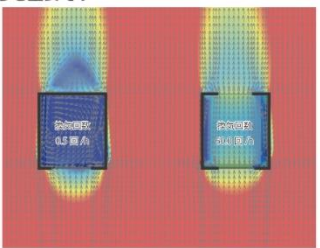
とは直接関係のない質問、例えば「今度〇〇に旅行に行くんですけど、見ておくべき建築物はありますか？」等といった質問にも答えるようにしており、学生のより広い知識の獲得と学生とのコミュニケーションを目的としている。更に、学生からの質問や感想を毎回確認することで、学生がどの部分をわかりにくいと感じているかやどの部分に興味を持ったかを確認可能なため、授業改善にも活用している。

月	日	授業科目
学籍番号		氏名
授業の感想、質問などを自由に書いてください。		

図 4 質問・感想シートのイメージ

**0. 質問・感想へのフィードバック**

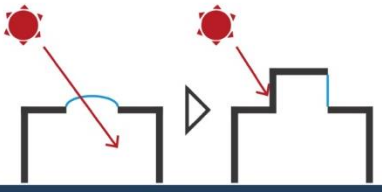
- ・長崎の中間季の風向が昼は北と南西から吹き、夜は北北東、東あたりから風が吹くというデータでしたが、窓を取り付ける場合、昼と夜の風向どちらを優先すべきですか？あまり優先とかはないのでしょうか？
- 主に昼に使用する建物用途(学校・オフィス・庁舎)の場合は、昼を重視しますが、住宅の場合はどちらも重要です
- 例えば、南から風が吹く場合は、南に窓をつけるだけでなく、「風の抜け道」を意識して、北面にも窓をつける必要があります
- そう考えると、長崎の場合、南、北に窓をつけておけば、南西・北・北北東からの風を取り入れることができます



環境論  
気候を知る⑨ (資料作成) 3

**0. 質問・感想へのフィードバック**

- ・天井がガラスになっている建物で、よく布などで閉じられているものがありますが、布を使わずに、そのままだったり、洒落た見た目の通り方などはご存知ですか？
- トップライトのことですね
- まず何故布で閉じられているかというと、直射日光が入ってきて、暑いからです
- 北向きに窓を向けるように設計すれば、簡単にその問題をクリアできます



家庭電気・機械  
家庭で使用するエネルギーの種類・特性、電気の基礎知識 8

図 5 質問・感想への回答のイメージ

### 3) 「今日の 1 けんちく」

建築への興味、関心を引き出すことを目的とし、毎授業で「今日の 1 けんちく」というコーナーを設け、世界中の建築物を 1 つ紹介している。前述の毎回配布資料に、「質問・感想へのフィードバック」に続く形で組み込んでいる。紹介する建築物については、以下の点に留意して選択している。

- ・ デザインが斬新で学生が興味を示しやすそうなもの。
- ・ 九州内等、実際に見学に行きやすいもの。
- ・ 旬なもの。例えば、サッカーワールドカップの開催期間中はその会場のスタジアム、WBC (WORLD BASEBALL CLASSIC) の時期は野球場、近所で建築家の展覧会が開催されている期間はその建築家の作品、等である。

この取組みを通して、学生からは「〇〇という建築家に興味を沸いた」、「紹介された建物を実際に見に行った」等といった声があがっており、学生の興味、関心を引き出すという目的を達成できていると考える。

4) 「前回の復習」

知識の確実な定着を目的として、毎授業で5~10分程度の時間をかけて前回授業の復習を簡単に行っている。「質問・感想へのフィードバック」、「今日の1けんちく」に続く形で配布資料にも組み込んでいる。

5) 「記憶定着のための〇×テスト」

知識の確実な定着を目的として、毎回授業の最後で、その日に学習した内容に関する〇×テストを実施している（演習系の授業は除く）。図6にそのイメージを示す。これも毎回授業の配布資料に組み込んでいる。

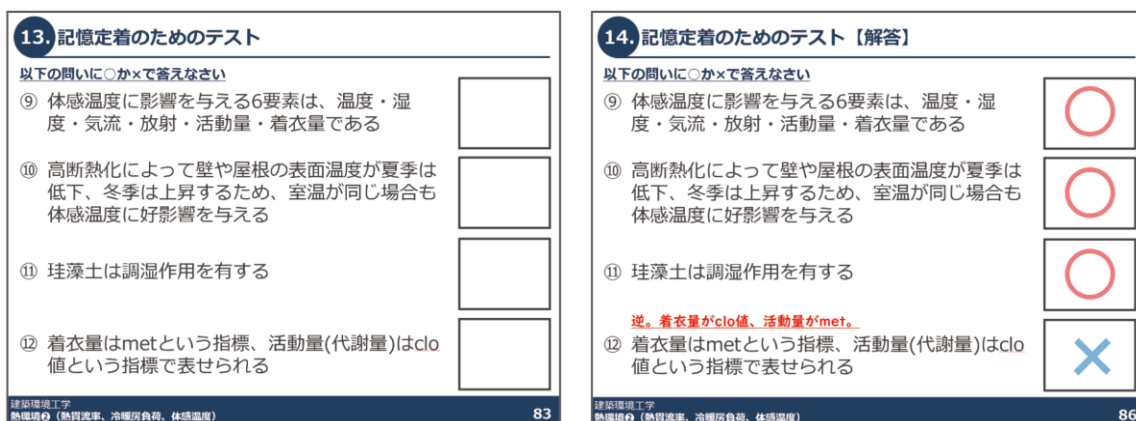


図6 記憶定着のための〇×テストのイメージ

6) 定期試験対策用の問題集の作成、配布

定期試験実施科目については毎回の配布資料とは別に、全15回の授業内容をカバーする問題集を作成、配布している。図7、図8に示したとおり、問題集は問題編と解答編に分かれており、更に前半・後半に分けている（それぞれ100問程度、計200問程度のボリューム）。学生の自主学習を促すことを目的としている他、毎回配布資料の穴埋め部分をただ単にインプットするだけでなく、対応力を養うことも狙っている。

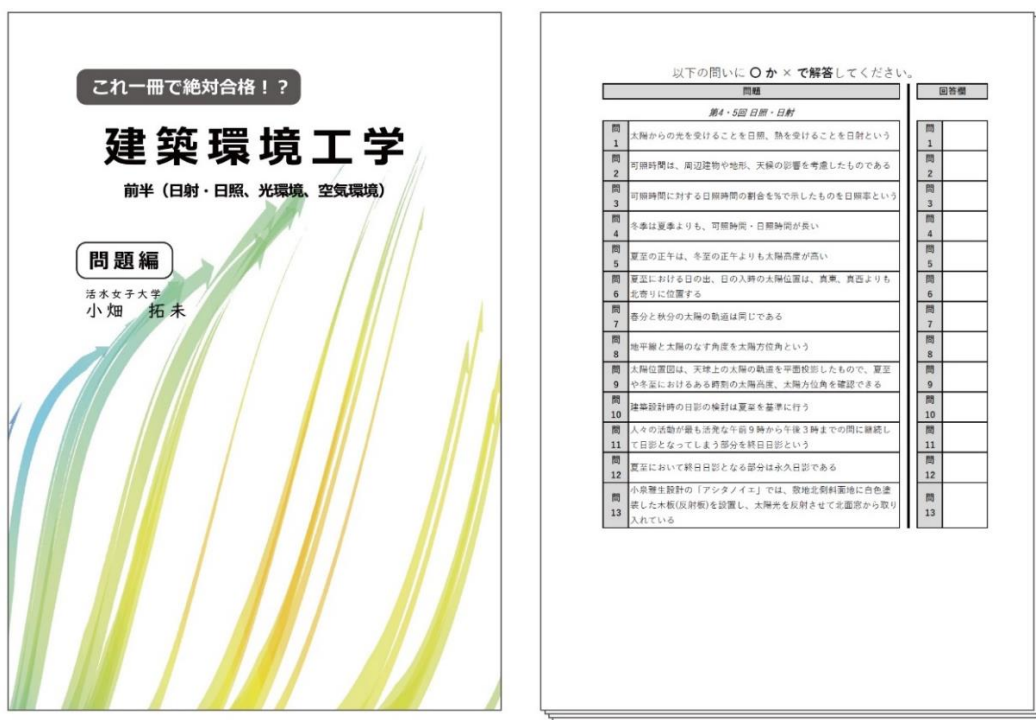


図7 定期試験対策用問題集のイメージ（問題編）



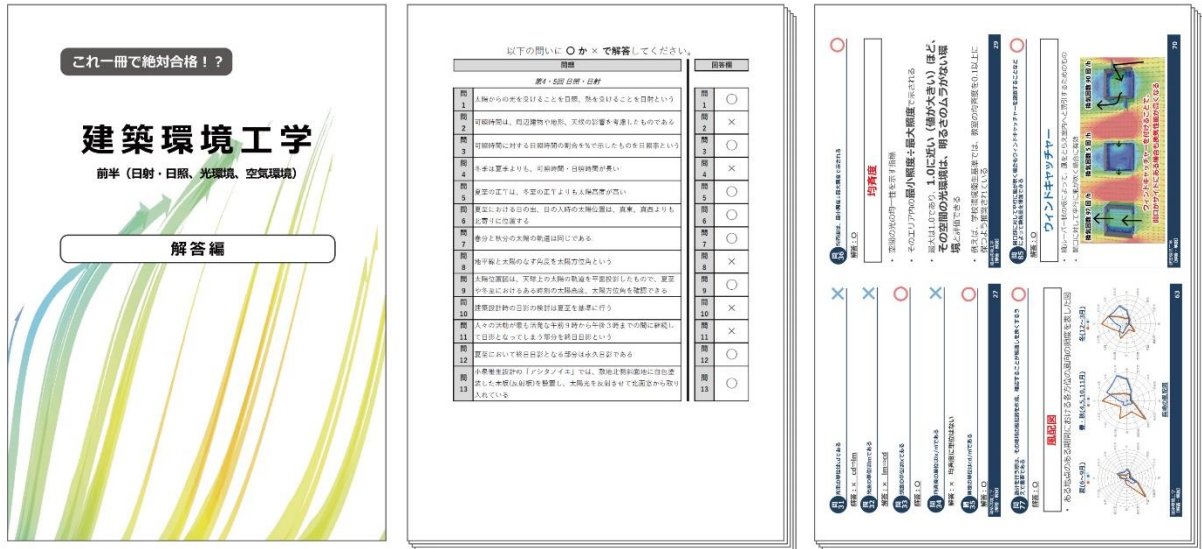


図 8 定期試験対策用問題集のイメージ (解答編)

7) 毎回授業での配布資料とは別に配布するオリジナルテキスト

毎回授業の配布資料とは別に、ソフトウェアの使用方法に関しては独自にテキストを作成し、配布している。例えばこれまでに以下を作成、配布した。

- ・ Adobe illustrator によるプレゼンシート作成テキスト (A4、49 ページ)
- ・ Adobe Photoshop による建築パース作成テキスト (A4、50 ページ)
- ・ Relux による昼光シミュレーション実践テキスト (A4、73 ページ)
- ・ 気象データの設計への活用テキスト (A4、14 ページ)
- ・ CFD 解析による風シミュレーションテキスト (A4、56 ページ)
- ・ 日射シミュレーションテキスト (A4、21 ページ)
- ・ 風配図作成テキスト (A4、5 ページ)

これらの資料の作成と配布は、学生が授業外で課題・ポートフォリオ (就職活動や大学院入試で使用する自身の作品集) 作成に取り組む場合に利用可能な資料として資することを目的としている。ソフトウェアによっては日本語のマニュアルが存在しないものもあるため、重宝されているのではないかと考える。Adobe のソフトウェアに関しては多くの書籍が流通しているが、必要最低限の情報を整理しわかりやすく提供することで、学生が活用しやすいように配慮している。

8) 動画教材の作成、配布

CAD ソフトやシミュレーションソフトを使った授業に関しては、操作方法を説明した動画教材を作成し、Google ドライブ上にアップしている。これによって、学生が、授業後にいつでも QR コードを読み込み、閲覧、復習できるようにしており、欠席した場合や作業が遅れた場合においても挽回できるように配慮している (図 9)。



図9 動画教材の配布イメージ

## 9) 独自の建築設計演習プログラム

建築分野には、意匠、環境・設備、構造、材料等、様々な分野が存在するが、筆者は、学生には縦割り意識を持たず幅広い視野を持った建築技術者・設計者になってほしいと考えており、筆者の専門分野である環境工学の知見を建築デザイン提案に活用できる人材育成（環境と意匠のコラボレーション）を目指して教育を実践している。ゼミ等において、環境シミュレーションを活用した建築設計演習等を実施しており、その内容については既報<sup>10)</sup>を参照されたい。

## 10) 試験結果の開示

定期試験の結果は、ヒストグラムを作成し平均点等の情報や総評を添えて、大学のポータルサイト上に開示するようにしている。更に希望する学生には個別で点数を教えるようにしている。大学の定期試験の点数は、最終的な成績評価を除き開示されることは少ないと思われるが、自分の努力の成果をわかるようにすることで自信をつけさせたいという狙いがある。

## 6.おわりに

本報では、建築環境工学分野の大学教員である筆者が作成したティーチング・ポートフォリオの概要、並びに、教育実践方法の紹介を行った。今後も様々な取り組みの実践と検証、改善を繰り返し、より効果的な教育を目指していく所存である。

## 注釈

注1) 活水女子大学ホームページの教員一覧 (<https://www.kwassui.ac.jp/university/gakubugakka/kyouin.html>) および research map における「資料公開」([https://researchmap.jp/kobataketakumi/published\\_works](https://researchmap.jp/kobataketakumi/published_works)) にて公開している。

注2) 会場は本学の一室であったが、8月9日は台風接近に伴いオンラインでの開催となった。

注3) 活水女子大学において、各学期の学生からの授業評価がきわめて高い教員を表彰する「グッドレクチャー賞」という制度が設けられており、筆者は2022年度後期のグッドレクチャーを受賞した。

注4) 授業内で実施した演習の効果を把握すべく、過去幾度か独自のアンケートを実施した。そのアンケート内容および結果は既報<sup>10)、11)</sup>を参照されたい。

#### 参考文献

- 1) 独立行政法人 大学評価・学位授与機構：日本におけるティーチング・ポートフォリオの可能性と課題－ワークショップから得られた知見と展望－、評価結果を教育研究の質の改善・向上に結びつける活動に関する調査研究会報告書、2009年3月
- 2) 栗田佳代子：大学教員の教育業績評価の方法としてのティーチング・ポートフォリオ、大学評価研究 = University evaluation review、19号、pp.55-63、2020年10月
- 3) 佐賀大学全学教育機構：ティーチング・ポートフォリオ/アカデミック・ポートフォリオ、<https://www.oge.saga-u.ac.jp/portfolios.html> (2024年1月5日閲覧)
- 4) 麻布大学：教員一覧、[https://www.azabu-u.ac.jp/academic\\_graduate/lab/teacher/](https://www.azabu-u.ac.jp/academic_graduate/lab/teacher/) (2024年1月5日閲覧)
- 5) セルディン P (著)、大学評価・学位授与機構 (監訳)、栗田佳代子 (訳)：大学教育を変える教育業績記録、玉川大学出版部、2007年
- 6) 山地弘起、劉卿美、橋本健夫：米国における大学教員の教育活動評価－カリフォルニア州の3大学の事例から－、長崎大学 大学教育イノベーションセンター紀要、第5号、pp.13-18、2014年3月
- 7) 皆本晃弥：ティーチング・ポートフォリオ導入・活用ガイド 大学教員の教育者としての業績記録、近代科学社、2012年2月
- 8) 皆本晃弥：5. ティーチング・ポートフォリオによる教育業績評価、医学教育 47 (2) pp.89-96、2016年
- 9) 栗田佳代子、吉田墨：教育活動の振り返りを目的としたティーチング・ポートフォリオ・チャートおよび作成研修の開発と評価、高等教育開発、第1号、pp.19-27、2022年
- 10) 小畑拓未：大学における建築設計教育への環境シミュレーションの導入 その1 昼光シミュレーション、活水論文集、第66集、pp.99-113、2023年3月
- 11) 小畑拓未：大学生を対象とした SDGs に関する認知度・関心度・取組み実施状況の把握および演習実施の効果について、日本建築学会研究報告 九州支部、第62号、pp.193-196、2023年3月